



全国学力・学習状況調査（3年）及びCRT検査（1・2年）の結果

～本校生徒の強みと弱み、今後の指導について～

本年度実施された全国学力・学習状況調査（4月19日実施）の結果が9月末に公表されました。その結果を受けて、本校生徒の強みと弱みを分析して検証した結果と今後の指導についてお知らせします。また、1学期に1、2年生を対象にして実施されたCRT検査（学力到達度検査）の結果についても、同様に本校の生徒の学力の定着状況、その強みと弱みについて分析し、今後の手立てについてまとめました。調査より、本校生徒の学力のすべてが測定できるものではありませんが、その結果より今後の本校の子どもたちの学力向上とその取り組みに活かしたいと思います。



1年生・2年生 CRTの結果について

【1年生について】

国語については、「漢字を覚えて正しく使うこと」の領域は理解能力が高く、言葉を「適切に」「正しく」使うことができています。しかし、「国語への関心・意欲・態度」の観点が全国平均に比べ低く、「話し手の意図を考えて聞くこと」「適切に話し合うこと」の領域が低いという結果となりました。

今後も漢字などの語彙力を高める取り組みの継続とともに、話し合いの活動を授業に取り入れ、自分の考えを順序立てて説明したり、話の内容をメモを取って聞いたりする知識・技能を身につけていきます。また、生徒にとって魅力ある授業を創造していきます。

数学については、全体を見ると全国平均なみで、基礎的な学力の土台はあるが、得意分野と苦手な分野との差が大きい結果となりました。比例や反比例・資料の活用が低いポイントを示しており、関数分野は3年間通して学ぶ分野なので、復習を含め、丁寧に指導していきます。また、資料の活用についても、他教科との関連のある分野なので、授業で取り上げ、力をつけていきます。

【2年生について】

国語については、「書くこと」「読むこと」「話す・聞くこと」「言葉の知識・理解・技能」の4領域で全国平均をわずかではあるが上回っています。「読むこと」の領域では、文学的な文章を読む能力、「話すこと」の領域では構成を工夫して話す能力が高いポイントを示しています。しかし、一年生と同様に「国語への関心・意欲・態度」の観点が全国平均に比べ低いので、言語についての理解や技能を身につけるために小テストなどで繰り返し学習させるとともに生徒にとって魅力ある授業を創造していきます。

数学については、各分野で全国平均を上回っていることから、安定した学力がついていると考えられます。特に数学的な見方や考え方や数学的な技能はかなり高い結果となりました。しかし、数学への意欲・関心・態度は全国平均よりやや低いので身近な教材を取り入れて授業の工夫を図り、数学への意欲・関心・態度を高めます。

英語については、①コミュニケーションへの関心・意欲・態度」「②外国語表現の能力」「③外国語理解の能力」「④言語や文化についての知識・理解」の4領域全てにおいて、全国平均を上回っており、特に、④と①については、全国平均より10ポイント以上高い結果となりました。しかし、4観点でみると、「I聞くこと」のポイントが1番低く、次いで「III読むこと」が低い結果となりました。Iに関しては、「語や文を正確に聞き取る」能力が低いので、リスニングの実施回数や方法を再度検討し改善していきます。また、IIIは、「英文を正しく読み取る」能力が低いためポイントが低いので長文に対して意欲をもって取り組めるような授業改善を行い、そのうえで読解の手順・考え方の指導法を見直し、長文に触れる頻度を増やします。

3年生全国学力・学習状況調査の結果について

○教科の強み・弱みの分析内容

国語A（知識）

全ての問題において、全国平均を上回っています。三重県平均と比べると、漢字の書き取り問題以外はすべて上回りました。資料を活用した基本的な言語知識を活用する問題に対しては強く、古文における「歴史的仮名遣い」を「現代仮名遣い」に直す問題では全国比較すると9ポイント上回る結果となりました。しかし、全国平均や三重県平均は上回っているものの「手塩にかける」「白羽の矢が立つ」といった語句の意味を文脈の中で適切に使う力がやや低い結果となりました。

国語B（活用）

全体として、全国平均も三重県平均も上回っています。A問題同様、資料を活用する力も高い傾向にあります。しかし、文章を要約した選択肢を適切に選ぶ問題で全国平均、三重県平均を下回っており、科学的な内容の説明文から必要な情報を整理する力が弱いようです。

また、最後の問題となった読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書く問題の無回答が約2割を占めました。時間が足りなかつたことが考えられますが、最後まで粘り強く書く力を養いたいと考えます。

数学A（知識）

A、B問題とも、全体的に、全国平均も三重県平均も上回っています。また、無回答率については、A、B問題どちらも全国平均も三重県平均も下回っています。

各分野において、基礎知識となるものについては、言葉も含め理解されていると考えられます。特に、瞬時に判断できるものについては得意であり、関数分野は他の分野より正答率が高く、全国平均、三重県平均よりもかなり高い結果となっています。

数学B（活用）

順序立てて、物事を考えていくことができています。また、無回答率の低い値からもわからなくとも考えようとしていることがわかります。各分野とも、正答率が全国平均や三重県平均よりも高い結果ですが、中でも関数分野が高い結果となっています。しかし、条件から式をつくることが苦手となっています。

3年生学校質問紙・生徒質問紙からみられる特徴

将来の夢や目標を持っているかの質問は全国平均より低いですが、人の役に立つ人間になりたいと思いますかの質問は全国平均より高い結果となっています。また、難しいことでも失敗を恐れず挑戦している生徒は全国平均並みですが、自分に良いところがあると思うかは64%で全国平均より低く、過去の卒業生よりも低くなっています。



本校では、昨年度より生徒たちが自分たちの課題を自ら見つけ、解決していく力を身に付けさせるために「クラス会議」の取り組みを進めています。今後もこの取り組みをすすめて主体的に考え、行動できる生徒の育成を目指していきます。また、志授業などのキャリア教育をすすめ、夢や志を持って学ぶことと社会とのつながりを意識しながら自立できる生徒の育成を目指します。

【 学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか 】

対応する質問番号	本校	三重県	全国
生徒質問紙 (30) 肯定回答	63.8	59.7	58.4
学校質問紙 (49)	よく行っている	34.6	29.9

※学校質問紙における三重県・全国の結果は「よく行っている」と回答した学校の割合です
『生活面』

全国・県平均より高い項目

- ・難しいことでも失敗を恐れず挑戦します ・学校の規則を守っています
- ・友達の話や意見を最後まで聞くことができます ・予習をしています
- ・人が困っているときは進んで助けることができます
- ・テレビゲーム・インターネット・メール等をする時間は4時間以上します
- ・休みの日は家庭学習を全くしません。
- ・人の役立つ人間になりたいと考えています



全国・県平均より低い項目

- ・将来の夢や目標を持っています ・自分に良いところがあります
- ・学校に行くのは楽しい ・社会や地域で起こっている問題や出来事に关心があります

『学習面』

全体的に国語・数学の意欲・関心は低いが、授業やノートなど記述については意識して取り組む傾向が強く、粘り強く解こうとする姿勢は、全国、県の平均より高い数値を示しています。しかし、社会に出た時に国語や数学が役に立つと思う生徒が少なく、実生活での必要性を感じている生徒も少ないという結果になりました。また、学習・テストの得点等具体的な事象に対する関心は高いが、生き方や生きがいなどを想像したり描いたりする資質能力や、自分で状況を確認して判断して行動に移す態度が弱い傾向があります。また、一部の生徒に自ら課題を持って取り組むという意識や学習に対しての意欲が低く家庭学習の習慣化されていないために学習内容が十分理解されていない様子が見受けられています。

今後の指導や取り組みについて

「国語」「数学」「総合的な学習」への関心の低さから、能力は高いが意欲を持って取り組めていない実態が見えます。そこで、志授業などキャリア教育をすすめ、勉強することの意義を考えさせ、生徒の意欲を高める授業を目指し、家庭学習の習慣を確実に身につけさせたいと思います。

- ・将来への展望を持たせ、勉強する意義を考えさせ、活動への意欲を持たせるよう働きかけます。
- ・すべての活動の場で、自己肯定感や人権意識を高める取り組みを進めます。
- ・授業のめあてを明確に示し、授業のふりかえりを行い、本校の学力向上システム「MITAKI」の「I」＝「ICTの活用」や、「T」＝「ともに学ぶ＝グループ活動」等をさらに充実させて、生徒の関心を高め、意欲的に取り組めるように指導の改善を図ります。
- ・補充学習等の充実として帰りの会の前に基本的な学習の定着を図るための学習を行い、また月曜日の7限目を「学習サポートタイム・グッジョブ」の時間として家庭学習シートの点検や補充学習を計画的に行います。
- ・家庭学習の習慣を確実に身に付けるため1. 2年生は毎日の授業の振り返りシートに取り組み、3年生は帰りの会前の基礎学習プリントにむけての学習を継続して取り組みます。

保護者のみなさまへのお願い

1 家庭学習の充実

本校の生徒は全国平均に比べて予習に比べ復習を行う生徒が少なく、家で教科書を使って学習する生徒が少ないという結果になっています。学校では勉強する意義を考えさせ、将来のため目標を持って努力する生徒をともに育てていきたいと思います。ご家庭におきましても、お子さんが学習する姿勢を励ましていただけるようよろしくお願いします。



2 通信機器の使用のルールを設定

ゲームやメール・インターネットの使用時間が減少すると、家庭での学習時間が増えてきます。学校でもネットモラルの学習に継続して取り組んでおりますので、ご家庭でも、使用時間やマナーについて話し合い、適切に使用できるようご指導よろしくお願いいたします。

3 親子の対話

地域や社会で起こっている問題について関心が低い傾向にあります。お子様に社会とのつながりを意識させてください。対話を多く持つコツは「聴き上手」になることです。受容的にしっかりと話を聞いてあげてください。

4 健康管理

生活のリズムを確立させ、自分の力で健康管理ができるように助言・協力をお願いします。一日の生活パターンを決め、規則正しい生活ができるようにしていきましょう。以上よろしくお願いします。

人生経営の社長就任に贈るメッセージ -志授業-

10月19日、岐阜立志教育プロジェクトの井上武理事長を講師に迎え「夢に向かって～人生経営の社長を目指す皆さんへ」を演題に、午前中は川島小学校、午後は三滝中学校で「志授業」を行いました。「過去は変えられない。変えられる未来に向かって目線をあげて、人生の目標＝志を持って努力することが大切」と井上さんが語られました。また、真珠王と呼ばれた御木本幸吉氏や「命のビザ」の発給で多くのユダヤ人を救った杉原千畝氏を例にしたエピソードや中学時代の恩師の言葉「鶏口牛後」を目標にして起業した井上さんの人生を話してくれました。さらに、感謝欠乏症になっている日本、働くことで幸せになること、夢は変わっていくが志は人生の目標となるものと語られました。そして人生の目標＝志を見つけるためには、挨拶、掃除、そして感謝することを始めること、そうすれば志を見つけることができると語られました。



生徒会長からは「未来に向かってのお話を聞かせていただきありがとうございました。井上さんの講演で特に印象に残ったことは過去は変えられないが自分の未来は変えられるでした。これからは自分の未来をよりよくするために目線をあげて何事にも挑戦して、努力していくと思います。」と感想が述べられました。

生徒そして我々教員にとって、「夢や志」を持ち、それを高め、継続すること、挑戦していくことの大切さについて考え、自己を見つめる機会をつくっていただきました。